

# きんぱく

誌面一新 リニューアル!

今回のテーマ おもてなし



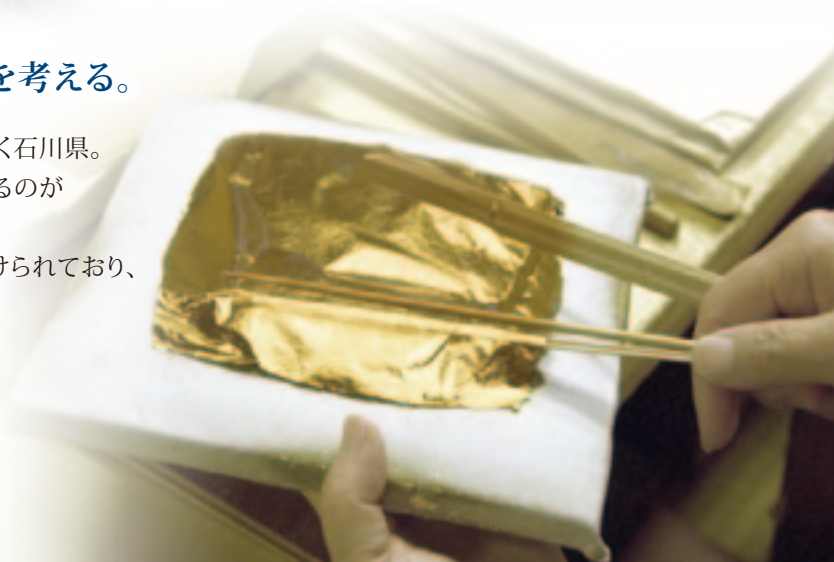
新幹線の開業で  
金沢駅が変わる!  
石川県が変わる!

## 金箔で おもてなし

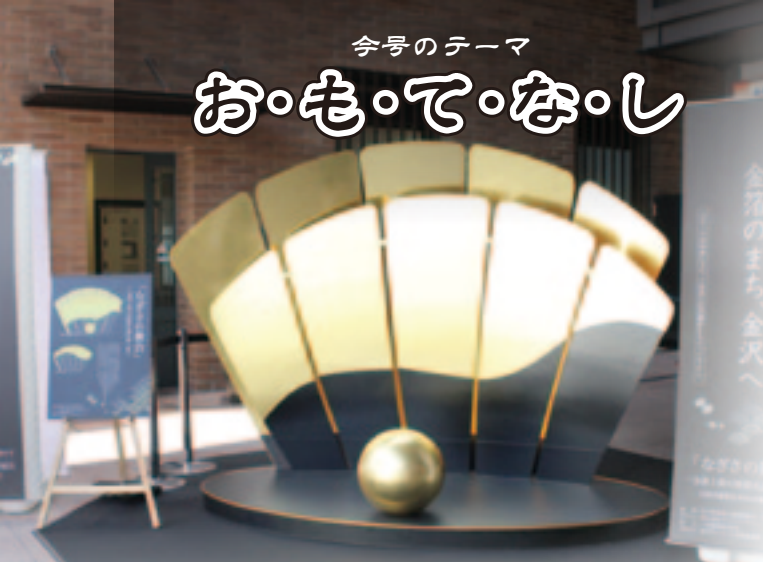


金沢に新しい顔が誕生する  
今「おもてなし」と  
金箔王国いしかわの箔文化を考える。

北陸新幹線金沢開業にともない、おもてなしムードにわく石川県。  
金沢駅で新幹線から降り立った観光客が最初に目にするのが  
金箔パネルが設置されたホームの支柱だ。  
金箔パネルは、ホームにある60本の支柱全てに取り付けられており、  
金箔の総使用枚数は約2万5千枚に及ぶ。  
国内生産シェア99%以上を誇る金箔の歓待で、  
金沢を訪れたことを実感してもらいたい。



# おもてなし



## 「おもてなし」と金箔

### どちらもこの地に 脈々と受け継がれる文化

「おもてなし」は、接待や待遇の他に「身に備わったものごし、身のこなし」という意味を持っている。ただ相手を迎えるだけでなく、相手のために心をつくすことを自然に身に着けていることが、流行語にもなった「おもてなし」には必要だということだ。



石川県は、そんな「おもてなし」の文化が古くから受け継がれてきた土地だ。例えば菓子。この地で生まれ育った人なら、幼い頃に大人の手伝いをしたり、おつかいをした際に「おてま」という小さな菓子包みをももらった記憶があるはず。大人になってからも「おもたせ」を受け取ったことがあるのではないだろうか。県内で見られる小さな菓子包みを渡すこの習慣は「手伝ってくれてありがとう、訪ねてくれてありがとう」という気持ちの表れだ。



菓子の下に敷いた和紙は、持ち帰る際は包みになる。こんなところにも「おもてなし」の配慮が行き届いている。

金箔の発達にも、同様の経緯が含まれているのではないだろうか。もちろん、権力や信仰の象徴という側面もある。これも権力者や神仏を喜ばせたい、信仰の証を形にしたいという思いが高価な金を用いることに繋がったのだろう。そうやって互いに感謝し、尊重しあって生まれる相互満足が「おもてなし」の本質ではないだろうか。

## おもてなしの極意

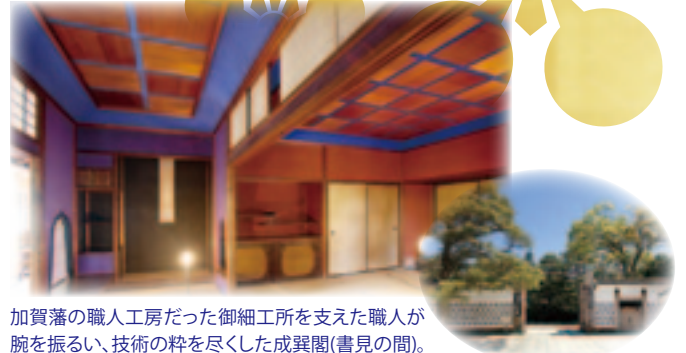
### あるがままに受け止める 心の余裕がおもてなしにつながる

茶道の創始者である千利休は、茶道を通したおもてなしの極意を「利休七則」として残している。

茶事を行う際の心構えをモチーフにしているが、現代風に要約すれば「あるがままのものをあるがままに受け止め、行動し、相手も自分も楽しめるよう心に余裕を持つこと」と解釈できる。

## 加賀藩おもてなしの脈流

### 命がけでおもてなし力を磨いた 大名が残したもの



加賀藩の職人工房だった御細工所を支えた職人が腕を振るい、技術の粋を尽くした成翼閣(書見の間)。

藩政時代、將軍家に次ぐ石高を持つ大名だった加賀藩前田家は、それだけに徳川家から目を付けられやすい立場でもあった。当時、禁制だった金箔の製造を密かに続ける一方で、あらぬ嫌疑をかけられないように將軍家をもてなすことは、当時の前田家にとっては藩と家臣を守るための命がけの行為だったに違いない。少しでも不手際があれば、藩は取りつぶし、家は断絶される。

そのため接待役には、藩主がもっとも信頼する家臣を任命し、飲食はもちろん、使われる食器や調度、取り上げる話題、土産などにも細心の気遣いをしたはずだ。時には内々に金箔製品を土産としたかもしれない。そうして「おもてなし力」とも

## 金箔の未来を語り、探る きらめく会議デスク

安江金箔工芸館3階の金沢箔技術振興研究所会議室のテーブルとイスは全面金箔貼り。ガラスやクリアな樹脂とのコラボレーションが美しく、近未来的とも言えるデザインになっている。

金箔の振興を意識して、PRのために配置したものである。打ち合わせや会議に、日常的に利用されている。安江金箔工芸館の団体見学でも公開されているので、希望すれば座り心地を確かめることも可能だ。

使用した金箔は断切箔と呼ばれているもので、使用枚数は以下の通り。

テーブル(素材:ガラス/日本製) 140枚

ひじ掛け椅子(素材:ポリカーボネード樹脂/イタリア製) 424枚(53枚/1脚×8)

ひじ無し椅子(素材:ポリカーボネード樹脂/イタリア製) 66枚(33枚/1脚×2)

Look at Gold

いえるセンスを磨き、伝統を重ねることで金箔をはじめとした  
工芸王国と呼ばれる今の石川県があるといえる。

## 金箔に見るおもてなしの心

### 金箔の深い包容力は おもてなしに相通じる

華やかな輝きが美しい金は、古代エジプトの王の仮面や、日本では、豊臣秀吉の黄金の茶室、京都の金閣寺な



現代の技で作られた金箔の茶室

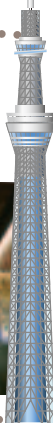
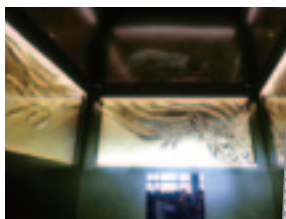
ど権力や信仰の象徴として使われてきた。そのうちに褒美や贈答としても用途を広げ、その過程でさまざまな工芸と結びつき、広い分野で利用されるようになった。美しい金箔が、他の素材と組み合わせられることで美術品として、工芸として互いに高め合う姿は、相互満足をもってするおもてなしの精神に繋がっていったのだろう。

こうして長い時間をかけて熟成された工芸王国・石川県の伝統はおもてなしの心を育み、現代まで受け継がれてきた。キラキラと輝く金箔を施した新幹線ホームの支柱にも、そんなおもてなしの心がふんだんに活かされている。

ホームに滑り込む新幹線、加賀五彩を模したホームゲートをすり抜けた来訪者が、美しい支柱を目の当たりにして上げる楽しげな歓声が聞けるのももうすぐだ。

### 東京スカイツリー®に使われた金箔

金沢で作られる金箔は、空間の華としてさまざまなところで使われている。意外なところのひとつに東京スカイツリーがある。タワーの中心部である心柱のまわりや受付カウンター、高速エレベーターの内装に金箔が施されているほか、ライティング「雅」で上品な江戸紫とともにキラキラと輝く金色の明かりは、金箔をイメージしている。



### 金箔博士のウンチク講座

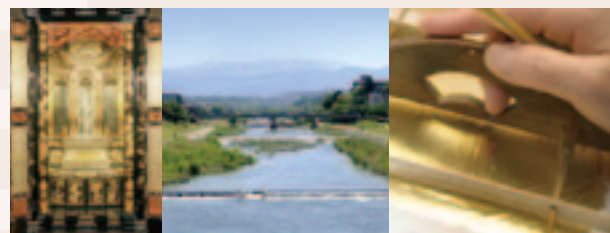
### 箔打ちは400年前の姿のまま 金沢の地で息づいている

大方の金沢市民は金沢で金箔が作られていることを知っているが、その内容については多くを知らない。ニュースレターが11号からリニューアルするにあたり、本コラムで金箔(金箔、銀箔他)の歴史、文化、科学、技術など随筆風に紹介できればと思う。

日本では古くから建築物や調度品の素材として木材を使用し、それらの耐久性向上と装飾の目的で漆を使用してきた。さらに、漆を接着剤として対象物に金箔や銀箔を押しつけて装飾効果を持たせた。

金箔は仏教とともに大陸から伝来したものである。奈良時代に建立された東大寺、平安時代の中尊寺金色堂、室町時代の鹿苑寺(金閣寺)、江戸時代の日光東照宮など、仏教寺院に多くの例を見ることができる。一方、安土桃山・江戸時代をピークとして、金屏風や襖絵、あるいは工芸品に盛んに金箔・銀箔が使用されてきた。これらは世界遺産として、また日本の文化財としての存在価値は極めて大きい。

金沢で金箔・銀箔が作られるようになって400年以上になる。江戸時代における加賀藩の産業政策、浄土真宗という宗教基盤、湿潤な気候、豊富な清流、職人の気質など、製箔業が定着するにはそれなりの環境は整っていたと言える。現在、国産の金属箔は、銀箔と洋箔(真鍮箔)が100%、金箔は99%が金沢で作られている。



IT産業や自動車産業に代表されるいわゆるハイテクを駆使した産業がモノづくりの主役となっている今日、製箔は今なお工程のほとんどが手作業であり、職人の熟練と勘だよりのモノづくりといえる。千数百年前、飛鳥・奈良時代において製箔技術はハイテクであったはずだ。それが長い時を経ても、手打ちが機械ハンマーに変わった以外、工程の基本はほとんど進化することはなかった。そしてこの技法が金沢の地で今なお息づいていることに不思議な縁を感じる。先述の文化遺産の修復には金箔が必須である。製箔は、ハイテクとは無縁の進化する余地がほとんど無かった、特異なモノづくりと位置づけるのが適当かもしれない。(所長 北川和夫)



2014年、秋

えんづけ  
400年の歴史を持つ縁付金箔が

# 国の選定保存技術に認定

金箔技術振興研究所

News Letter 



認定されたのは金箔製造の伝統的な技術である「縁付金箔」で認定団体は金箔伝承技術保存会。

縁付金箔は、金箔を挟んでいる箔打紙を職人が自ら仕込むため手間と時間がかかり、職人の経験と高度な技が求められることから現在は生産量が減少してきている。

完成した金箔のしなやかさや上質な美しさは、優れたものがあり文化財修復においては欠くことのできない存在として、金箔製造分野では初めての選定保存技術の認定を受けた。

## 選定保存技術とは

### 文化財を保存するための伝統的な技

#### ◆選定保存技術の選定基準

##### [有形文化財等関係]

- 一 有形文化財、有形の民俗文化財又は記念物の保存のために欠くことのできない伝統的な技術又は技能のうち修理、復旧、復元、模写、模造等に係るもの(次項において「有形文化財等の修理等の技術等」という。)で保存の措置を講ずる必要のあるもの。
- 二 有形文化財等の修理等の技術等の表現に欠くことのできない材料の生産、製造等又は用具の製作、修理等の技術又は技能で保存の措置を講ずる必要のあるもの。

##### [無形文化財等関係]

無形文化財又は無形の民俗文化財の保存のために欠くこと

選定保存技術とは、一言でいうと「文化財の修理技術やそれに用いられる材料および道具の製作技術」である。昭和50年に文化財保護法が大幅に改正された際に、文化財保存技術の保護のために創設された。

のできない伝統的な技術又は技能のうち芸能、芸能の技法若しくは工芸技術又は民俗芸能の表現に欠くことのできない用具の製作、修理等又は材料の生産、製造等の技術又は技能で保存の措置を講ずる必要のあるもの。

#### ◆選定保存技術の保持者又は

##### 保存団体の認定基準

**保持者**——選定保存技術に選定される技術又は技能を正しく体得し、かつ、これに精通している者。

**保存団体**——選定保存技術に選定される技術又は技能を保存することを主たる目的とする団体(財団を含む。)で当該技術又は技能の保存上適当と認められる事業を行うもの。

## 縁付金箔とは

### 薄くしなやかな上質の箔を打つ伝統の技術



和紙の台紙が金箔を縁取るように見えることから「縁付金箔」と呼ばれている。箔を延ばす力がなくなった箔打紙を「ふるや紙」といい、あぶらとり紙として利用された。

縁付金箔は、まず手漉きの雁皮紙に、稲わらから抽出した灰汁、柿渋や鶏卵を混ぜた液体を含ませ、それを約半年かけて打って、箔打紙に仕上げることから始まる。この箔打紙のよしあしで、金箔の品質が決まると言われるほど重要な工程だ。箔打紙に挟んだ金を打ち延ばし、竹製の道具を使って正方形に裁断し、これを金箔より一回り大きい三桮和紙に一枚ずつ置き重ねたものだけが縁付金箔と呼ばれる。

そのような伝統的な技術も、昭和40年頃に金箔の量産化を可能にした断切金箔製法の登場により、生産量に変化が見られた。現在では縁付金箔の生産は全体の約2割程度に留まり、後継者も減少してきている。

## 選定保存技術に選ばれた理由

# 縁付金箔は文化財修復に欠かせない素材

手漉き和紙を箔打紙に加工する工程を合理化した断たち切金箔におされ、伝承者が減少している縁付金箔だが、文化財の修理・修復は「可能な限りもとの材料または、もとの材料と同様の伝統的な技術で加工したものを使うこと」が原則になっている。また、より薄く仕上げることができ、しなやかで色つやも優れている縁付金箔は、文化財だけでなく繊細な素材が求められる現代の工芸でも需要は多い。

こうした背景から、技術の保存と向上を目的として平

成21年に金沢金箔伝統技術保存会が設立された。以来、保存会では職人への聞き取りや技術の映像化、技術交流などを進めてきた。

これらの活動や、文化財保護に不可欠な技術であることが認められての選定になった。

保存会の松村謙一会長は「技術は一日でも途切れれば再現が難しくなってしまう」と前置きし「これからは技術伝承者の育成が使命となる。20年、30年先を見据えて取り組んでいきたい」と話す。

## 金沢箔の歴史

# 400年以上続く伝統の技

金沢箔は、前田利家が金沢城に入城する前から工人がいたとも伝えられているが、記録では文禄2(1593)年、利家が豊臣秀吉の朝鮮出兵に伴って滞在していた肥前名護屋の陣中から、七尾で金箔を、金沢で銀箔を打つよう言い付けたことが最古のものである。

江戸時代に入ると、幕府が金銀銅の地金を管理するために、江戸に箔座を置いた。全国の金銀箔の製造と販売が中止されると、元禄11(1698)年に金沢での箔打ちも一度途絶えてしまう。ただしこれは表向きのこと、この間も金沢では真鍮や銅箔製造の名目で、密かに金銀箔の隠し打ちをして、連綿と技術を磨き続けてきた。

その後、文化5(1808)年に金沢城二の丸が全焼し、再建のために一時的に箔打ちが認められるものの、金沢城の修復や藩の御用箔に限るという条件付きで幕府から公式に許可されたのは、明治も間近の元治元(1864)年になってからだった。

明治維新で幕府が崩壊すると、箔の統制はなくなり、江戸の箔座も消滅する。この頃から金沢箔の生産・販売が飛躍的に増え、全国に広く知られるようになって、やがて国内の製造のほとんどを占めるようになる。

こうした社会的背景はもとより、箔打ちに適した気候や、豊富で良質な水資源に恵まれていたことも、金沢で金箔製造が発達した大きな要因になっている。

## 選定保存技術【概略】

選定保存技術の選定件数は71件。保持者57名、保存団体が31団体となる。ジャンルは建造物木工、修理、屋根葺きなどの建築土木から金具、鋳物、漆芸、藍染め、唐紙などの工芸、歌舞伎床山など多岐にわたる。

石川県内では、昭和53年に能管製作修理が選定されたが、保持者が故人となったため、昨年解除された。



# 金箔 初級① 検定

金箔を知らずして金沢は語れません。身近にありながらも意外と知られていない金箔のあんなことこんなこと。問題に答えて、プレゼントをゲット!

- 問1** 金箔は打ち紙の違いから、縁付箔と( )の2種類がある。  
 1. 打ち箔 (うちきり) 2. 断切箔 (たちきり)  
 3. 鎌切箔 (かまきり) 4. 石川箔
- 問2** 金箔の厚みは( )分の1mmである。  
 1. 100 2. 1,000  
 3. 10,000 4. 100,000
- 問3** 縁付箔の打ち紙は( )である。  
 1. 千代紙 2. 画用紙  
 3. 印画紙 4. 手漉き和紙 (てすき)
- 問4** 金箔は金と( )と銅を合わせた合金から出来ている。  
 1. 銀 2. アルミ  
 3. 鉄 4. 鉛
- 問5** 縁付箔は別名( )箔と呼ばれている。  
 1. 弁当 2. 納豆  
 3. 転倒 4. 伝統
- 問6** 金箔の打ち紙を加工することを( )という。  
 1. 紙作り 2. 紙醸造 (じょうぞう)  
 3. 紙仕込み 4. 紙搾り (しぼ)

第一回 金箔《初級①》検定の解答は弊所ホームページにて2015年6月初旬に掲載いたします。

郵便はがき

9 2 0 0 8 3 1

切手を  
お貼りください。

石川県金沢市東山1-3-10  
金沢市立安江金箔工芸館3F

金沢箔技術振興研究所  
金箔検定 (vol.11) 係行

## 素敵な金箔商品をプレゼント

上記の金箔検定の解答と下記のアンケートを、左記のハガキにご記入の上、ご応募ください。

正解率の高い方から10名様に素敵な金箔商品をプレゼントします(同点の場合は抽選)。

応募締切

2015年5月末日(消印有効)

※当選者の発表は商品の発送をもって代えさせていただきます。

## § アンケート §

アンケートにご協力をお願いします。

お寄せ頂きました結果をもとに紙面作成を行って参ります。

ご回答は左記のハガキにご記入ください。

### Q1 ご年齢は?

1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代以上

### Q2 きんぱーくをどこで手に入れましたか?

1. 図書館 2. 文化施設 3. 市や町の出先機関 4. その他

### Q3 今号のテーマ「おもてなし」はいかがでしたか?

1. 良かった 2. まあまあ良かった 3. 普通 4. つまらない

### Q4 金箔に関する事で取り上げて欲しいことがありましたらお書きください。

### 第一回 金箔《初級①》検定解答欄

解答欄	問1	問2	問3	問4	問5	問6

アンケート回答欄	Q1	Q2	Q3	Q4

商品発送先 住所 〒

お名前

お電話

※プライバシー情報は、商品の発送のみに使用します。

金沢箔技術振興研究所

News Letter きんぱーく

News Letter きんぱーく Vol.11

発行日/2015年3月1日

発行/金沢箔技術振興研究所

〒920-0831 石川県金沢市東山1-3-10

金沢市立安江金箔工芸館3F

tel. 076-225-8941 fax. 076-225-8942

e-mail kanazawa-haku@wind.ocn.ne.jp

金沢箔技研

検索

ホームページ  
http://www.kanazawahaku-giken.jp



※文中、クレジットのない画像は、金沢市・金沢箔技術振興研究所が著作権を所有しています。